

English Translation of Relevant Portion (U.M. "Kokai" No. 2-52758)

As shown in Figs. 2(a) and 2(b), a shallow groove is circumferentially formed around the instilling opening 6 on an upper surface of the nozzle 7 without varying the thickness of the tubular wall of the nozzle 7. This shallow groove 13 receives a dribble of liquid dripped from the instilling opening 6 in time of instillation, thereby to prevent so-called dribbling of the liquid.

公開実用平成 2-52758

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

平2-52758

⑬ Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)4月16日

B 65 D 47/06
47/40

H 8208-3E
E 8208-3E

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑮ 考案の名称 スクイズ容器

⑯ 実 願 昭63-130737

⑰ 出 願 昭63(1988)10月5日

⑱ 考 案 者 土 田 治 夫 東京都江東区大島3-2-6 株式会社吉野工業所内
⑲ 出 願 人 株式会社吉野工業所 東京都江東区大島3丁目2番6号
⑳ 代 理 人 弁理士 今岡 良夫

明 細 書

1. 考案の名称

スクイズ容器

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 上端に容器体 1 の口頸部 2 口頂面に乗る外向きフランジ 3 を設けて口頸部 2 に圧接内嵌される弾性変形可能な取付け用嵌合筒 4 の下端から折り返すように、この嵌合筒 4 との間に間隙 5 を隔ててこの嵌合筒 4 軸芯部を略垂直に上方に立ち上がる直筒状の注出孔 6 形成用のノズル 7 を立設し、前記折り返し部下面イを略平坦面とした口栓 8 を備えたスクイズ容器。

3. 考案の詳細な説明

「産業上の利用分野」

本考案は、口部に注出孔形成用ノズル付きの口栓を装着したスクイズ容器に関する。

「従来技術」

スクイズ容器は第 3 図に 1 例を示すように、容器体 21 の弾性を付与した胴部 22 を圧搾して収納液を口部から外部に加圧注出するものであるが、こ

の圧搾による注出量を適量にするため、容器口頸部23に小径の注出孔24を開けたノズル25付きの口栓26を内嵌し、また口頸部23外面に、裏面から前記注出孔24を閉栓する突子27を垂下したキャップ28を嵌合装着している。

前記口栓26は、図示のように口頸部23に内嵌する直筒状の取付け用嵌合筒29上端からノズル25を山形に上方に突き出した形状のものが多い。

「考案が解決しようとする課題」

この種スクイズ容器では、注出に際しては一方の手で容器胴部22を押え、他方の手でキャップ28を外すが、この場合の胴部22押えが幾分胴部22を圧搾することになる。一方、収納液が乳液状のように粘性を有する場合には注出後ノズル25内壁面に液状に付着残溜しているので、前記キャップ28外し時残溜泡がノズル25から外部に押出され見苦しかった。

そこで、第4図に示すように、口栓26を、従来のノズル25を山形の突出筒とし、この突出筒25頂部から細い直筒状のノズル30を貫通垂設して付着

液が流下しやすいようにし、かつ注出後負圧になった容器体1内にノズル30を介して流入する外気で下端に追い落とし、斜面口から滴下させるようにしたものが現在考えられている。

この手段によれば、上記見苦しさが解消できるが、反面注出時にノズル30まわりの空間31に流入した液は注出されずに残量となる無駄の生じるのが欠点である。さらに、上記両例共に取付け用嵌合筒29をやや固めに口頸部23に内嵌して取付けるが、この取付けは徐々に弛みが生じて液洩れをおこす懸念がある。

本考案は、無駄な残量の生じることが防止でき、また液洩れの懸念が解消できる改良した口栓を備えたスクイズ容器を得るにある。

「課題を解決するための手段」

本考案のスクイズ容器は、上端に容器体1の口頸部2口頂面に乗る外向きフランジ3を設けて口頸部2に圧接内嵌される弾性変形可能な取付け用嵌合筒4の下端から折り返すように、この嵌合筒4との間に間隙5を隔ててこの嵌合筒4軸芯部を



略垂直に上方に立ち上がる直筒状の注出孔 6 形成用のノズル 7 を立設し、前記折り返し部下面イを略平坦面とした口栓 8 を備えたものとしたものである。

「作用」

上記において、容器体 1 内の液は胴部 9 を圧搾することで口栓 8 のノズル 7 から外部に加圧注出するが、この口栓 8 は、ノズル 7 を取付け用嵌合筒 4 下端から内側に折り返させ、この折り返し部下面イを平坦面とし、この平坦面イが注出孔 6 と口頸部 2 間を塞ぐ役目をしているので、ノズル 7 まわりには容器体 1 内に通じる空間が存在せず、容器体 1 内の液は略全量注出することができ、無駄な残液が生じない。

また取付け用嵌合筒 4 は弾性を有し、容器体 1 の口頸部 2 に強制的に押込まれ、この口頸部 2 内面に弾着的に圧接して取付けられるので十分に密着させることができ、しかもこの圧接内嵌は半永久的に保持させるので、液洩れの懸念はなくなる。

「実施例」



以下図面を参照して一実施例を説明するに、本考案のスクイズ容器の口栓 8 は、ノズル 7 まわりに容器体 1 内に通じる空間を設けない形状とし、また取付け用嵌合筒 4 を口頸部 2 に弾着的に圧接内嵌させて液洩れを防止した点に特徴を有する。

第 1 図 a , b において、1 は胴部 9 を弾性変形可能とし、また口頸部 2 外面にねじ山を形成した容器体、8 がこの容器体 1 の口頸部 2 に圧接内嵌された口栓、そして 10 が頂板 11 裏面に前記口栓 8 の注出孔 6 に挿入する開閉栓用突子 12 を垂下して口頸部 2 外面に嵌合装着させるキャップである。

前記口栓 8 は、上端に容器体 1 の口頸部 2 口頂面に乗る外向きフランジ 3 を設けて口頸部 2 に圧接内嵌させる弾性変形可能な取付け用嵌合筒 4 の下端から折り返すように、この嵌合筒 4 との間に間隙 5 を隔ててこの嵌合筒 4 軸芯部を略垂直に上方に立ち上がる直筒状の注出孔 6 形成用のノズル 7 を立設し、前記折り返し部下面 1 を略平坦面とした形状のものである。

即ち、ノズル 7 は取付け用嵌合筒 4 下端から折



り返すよう立ち上っており、しかもこの折り返し部下面イを略平坦な面としてあるので、ノズル7まわりに容器体1内に通じる空間が形成されず、収納液に残量は生じない。また取付け用嵌合筒4は弾性変形可能なので、略半永久的に口頸部2に圧接内嵌し、液洩れの懸念がない。

上記第1図例では、直筒状ノズル7の上方に突き出た上半部の外面が先細りの形状になるよう筒壁の肉厚を変化させているが、第2図a、bに示したものは、ノズル7の筒壁の肉厚を変化させず、このノズル7上端面に注出孔6を囲むように浅溝13を周設し、注出時の注出孔6からの垂れ液をこの浅溝13に溜め、いわゆる液垂れが防止できるようにしたものである。

上記各部は合成樹脂材で成形製作する。

「考案の効果」

上記したように本考案では、口栓8の注出孔6形成用の直筒状ノズル7を、容器体口頸部2に内嵌固定する取付け用嵌合筒4下端から内側に折り返すよう立ち上げて形成し、その折り返し部下面

イを略平坦面とし、ノズル 7 まわりに容器体 1 内に通じる空間が形成されないようにしたので、収納液に無駄な残量が生じず、また前記取付け用嵌合筒 4 は弾性変形可能とし、口頸部 2 に弾着的に圧接内嵌するようにしたので、液洩れの懸念のないスクイズ容器が提供できる。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図 a は本考案スクイズ容器の一実施例の要部縦断正面図、b 図は a 図の口栓の半部縦断正面図、第 2 図 a は他実施例の口栓の半部縦断正面図、b 図は a 図のハ部拡大図、第 3 図は従来のスクイズ容器の一例の縦断面図、第 4 図は本考案を説明するために引用した口栓の縦断面図である。

1 … 容器体

4 … 取付け用嵌合筒

7 … ノズル

8 … 口栓

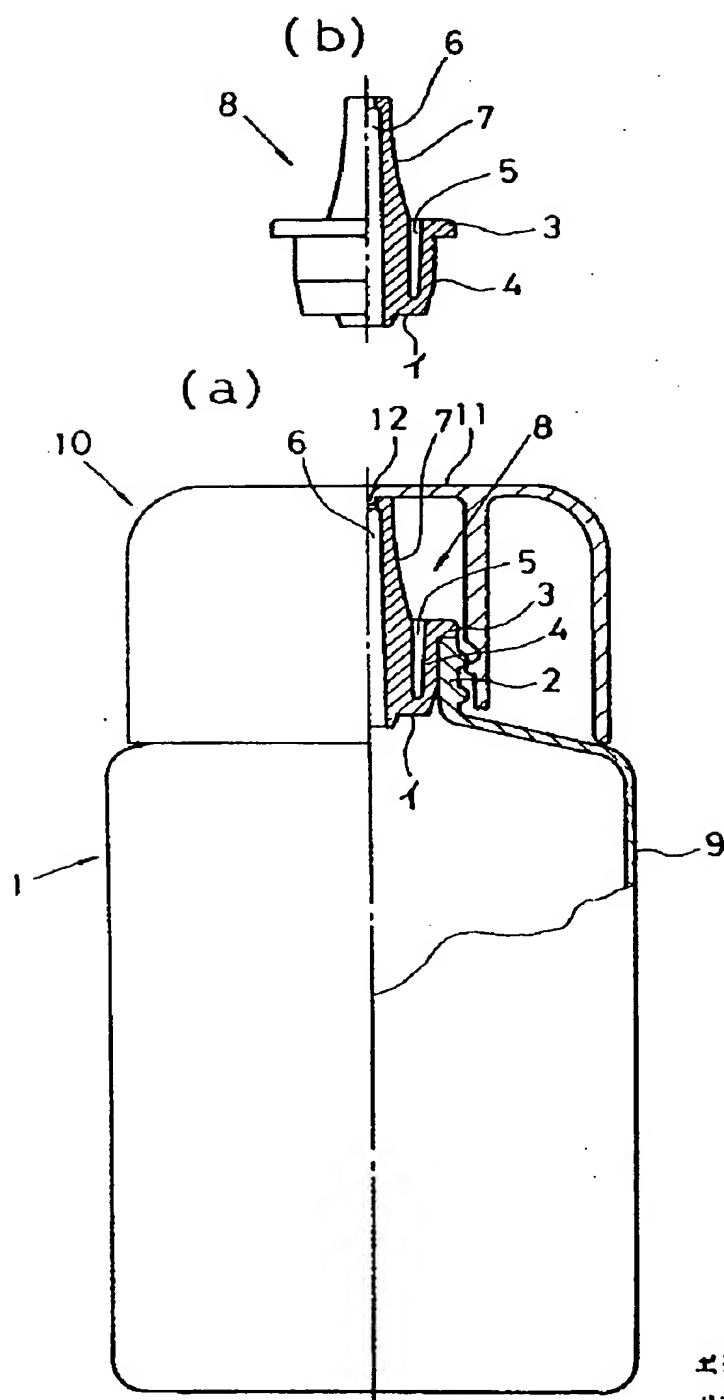
10 … キャップ

出願人 株式会社 吉野工業所

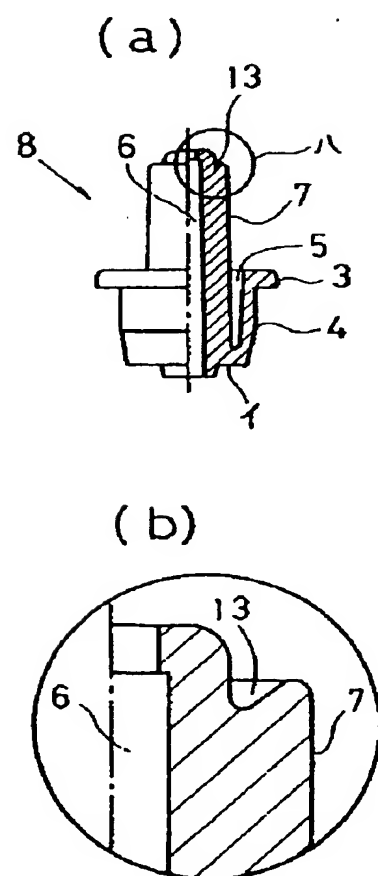
代理人 弁理士 今岡良



第 1 図

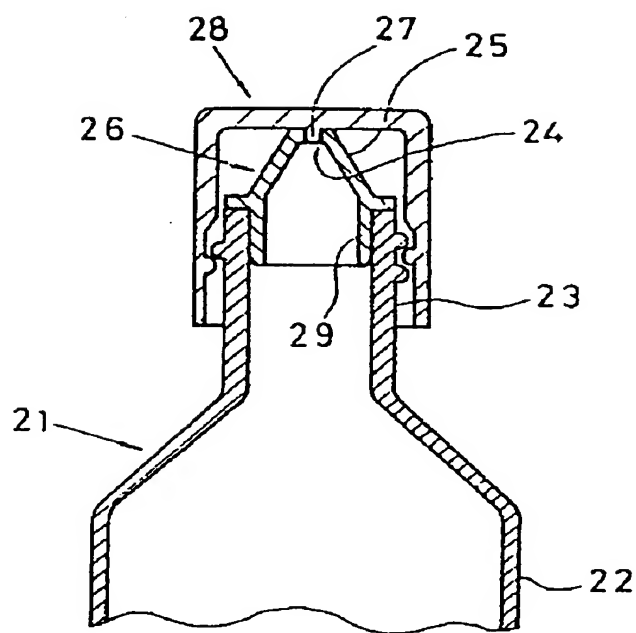


第 2 図

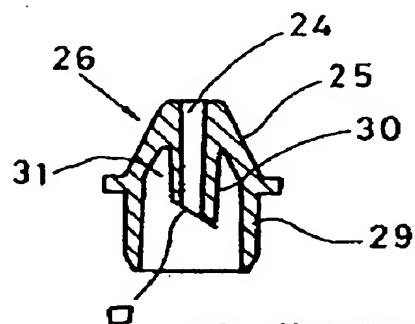


出願人 株式会社 吉野工業所
代理人 (弁理士) 今岡 良夫

第 3 図



第 4 図



土頼人 株式会社 吉野工業所
 代理人 (弁理士) 今岡 康夫
 52758